



現代に印象派を体験するために

2010年6月から9月までノルマンディー地方各地で印象派をテーマに開催されるノルマンディー印象派フェスティバルは、フランスの2010年夏の主要な文化イベントです。

ローラン・ファビウス元首相や多くのノルマンディー地方の自治体（オート・ノルマンディー地域圏、バス・ノルマンディー地域圏、セーヌ・マリティーム県、ルール県、ルーアン市、カーン市など）の発案を受け、大手各企業の協賛を得て開催が決まったこのイベントは、多分野にわたり、フランスでも例を見ない大規模なものとなります。観光客にとっては、印象派揺籃の地であるノルマンディー地方の類稀なる文化遺産とすぐれた創造性を発見できる良い機会となります。

印象派とその時代に直接関わるイベントやその前衛的な精神を今に伝える様々な催しが、地元住民をはじめ、バカンス客や、世界各国から訪れる芸術愛好家を魅了することでしょう。

あらゆる形の印象派

絵画、現代芸術、音楽、映画、ダンス、写真、ビデオ、文学、講演、音、光、草上の昼食、居酒屋などなど、ノルマンディー印象派フェスティバルの内容は多種多様で、あらゆる芸術様式に開かれたプログラムが用意されています。

フェスティバルの目玉となるのが、ルーアン美術館で開催される話題の展覧会、《印象派の町：ルーアンのモネ、ピカソ、ゴーギャン》展で、世界中の美術館や個人所蔵の莫大な数の作品が展示され、中には、フランスで初めて公開される傑作も何点か含まれています。そして、このルーアン美術館での展覧会を補う形で、ノルマンディー各地の文化拠点（ジヴェルニー、オンフルール、シェルブール、ディエップ、サン・ロー、リジュー、ル・アーブルなど）で、印象派の起源やゆかりの地、体験を通して印象派の多様性を物語るイベントが開催されます。

今回のフェスティバルが、音楽や写真、現代アート、ビデオ・アート、イルミネーション、映画、演劇、パフォーマンスなど、最も現代的な表現を含む非常に多様な創作形態で展開されるのも、印象派運動がいかに豊かであったかを示すものです。

また、ノルマンディー地方の風景を愛した印象派の画家たちに倣って、歴史建造物への投影や、花火スペクタクル、セーヌ川クルージング、草上の昼食、郊外の居酒屋、印象派の足跡をたどるコースなど数多くの屋外のイベントも、フェスティバルのプログラムに加わり、賑やかなお祭り気分と観光気分を盛り上げます。

印象派はノルマンディー地方で生まれました。

ノルマンディー印象派フェスティバル実行委員、ジャンク・シルヴァン・クラン

印象派の名前が、モネが 1872 年にル・アーブルで描いた作品「印象、日の出」に由来することは、誰もが知っています。この作品は、一瞬の時を捉えようとし、形より色を優先し、画家の細かなタッチが分解したものを見る人に再構築させようとする表現方法を、見事に表しています。この作品を揶揄の対象として選び、印象派の画家たちをこうした表現方法の信奉者だと評した辛辣な批評家のルイ・ルロワは、自分がどれほど洞察力に優れていたかに気付いていなかったのです。彼は、光を、屋外の風景を、一瞬の印象を探し求める一つの芸術潮流の誕生を指摘すると同時に、この運動が生まれた場所を明らかにしたのです。

印象派は、1863 年の落選展（公式のサロンに落選した作品を集めた展覧会）で、突如パリに登場したかのように見られています。しかし実際には、芸術史上もっとも重要な絵画革新の一つである印象派の運動は、新しい絵画ジャンルが段階的に姿を変えていく中で、ゆっくりと誕生していったのです。屋外の《風景画》は、すでに 1820 年代から、ノルマンディー地方で盛んに描かれました。

ノルマンディー地方が、長い間にわたって、あらゆる芸術家や、あらゆる芸術や政治的思想の先駆者に好まれる創作の場であったのには、以下に述べるようなきちんとした理由があります：

- ノルマンディー地方には長い絵画の伝統があったこと。
- 豊かな建築遺産を持つノルマンディー地方は、19 世紀に起きた中世建築遺産復興運動の先頭に立っていたこと。
- 同時期、ノルマンディー地方は、イギリスで好まれ、徐々に主要なジャンルとなっていた新しい絵画ジャンルである風景画（コンスタブルやターナーなど）が登場した場所であったこと。
- 風景画の流行は、王政復古と 7 月王政による貴族階級たちの海水浴ブームの影響も受けていること。
- 画家たちがノルマンディー地方に惹きつけられたのは、この地方がパリに近かったことも理由の一つであること。

以上の理由から、ノルマンディー地方は印象派の源となったわけですが、もうひとつ重要な要素があります。それは、**英仏の接近**です。フランスとイギリスを隔てたナポレオン戦争と大陸封鎖の後、ノルマンディー地方は、両国の前衛芸術家の出会いと交流の場となったのです。

ノルマンディー印象派フェスティバル 2010 の文化プログラム

(2009年9月22日現在)

絵画

ルーアン美術館

「印象派の町：ルーアンのモネ、ピカソ、ゴーギャン」展

2010年6月4日～9月26日

ジヴェルニー印象派美術館

「セーヌ河畔の印象派」展

印象派時代のレジヤールと別荘地

2010年4月1日～7月

「アルベール・デュボワ・ピレ (1846-1890) と独立展 (仮題)」展

2010年7月28日～10月31日

オンフルールのウジェーヌ・ブーダン美術館

「オンフルール、伝統と近代の狭間 1820～1900」展

2010年7月3日～10月4日

カーン美術館

「印象派の版画」展

2010年6月4日～9月5日

ル・アーブルのアンドレ・マルロー美術館

「誰も見たことがないドガ、サン・コレクションから」展

2010年6月12日～9月19日

「シニャック、フランスの港」展

2010年10月～2011年1月

オンフルールとグラン・ケヴィリの《ノルマンディーで描く》財団

モネ、クールベ、コロドー、ブーダン、カル、ルブリエ、パンション、ラム、ドラットルなど

2010年6月～9月

シェルブール・オクトヴィルのトマ・アンリ美術館

「ミレー、印象派の夜明け」展

2010年6月14日～9月12日

ディエップの城の美術館

ルノワール、ピカソ、ブーダン、モネとその周辺」展

2010年6月～9月

ヴェルノンのプーラン美術館

「画家たちのセーヌ：ブーダンからヴァロトン」展

2010年6月～9月

ヴィルキエのヴィクトル・ユーゴ美術館

「印象派に逆らって・・・」展

2010年5月30日～10月3日

サン・ローの美術および民俗学博物館

「コローとミレーの足跡：印象派の時代から現代ノルマンディーまで」展

2010年6月～10月

リジウーの歴史美術博物館

「レオン・リズネール、1808年～1878年、ロマン派から印象派へ」展

2010年6月4日～11月8日

現代アート

ソットヴィル・レ・ルーアンのオート・ノルマンディー地方現代アート財団

「庭園にて：草上の昼食とジヴェルニーのモネの庭に敬意を表して」

2010年5月29日～10月10日

ジュミエージュ修道院

「積みわら」展

2010年7月3日～8月31日

「庭園の中で、現代の積みわら」展

2010年7月3日～8月31日

ルーアン地方美術学校

「ウェザー・リポート」展

2010年6月～10月

ルーアンのセーヌ・マリティーム県庁の庭園

「印象派とアート・ビデオ：こだまする光」展

2010年6月1日～10月30日

写真

シェルブール・オクトヴィルのアート・センター《ル・ポワン・デュ・ジュール》

ルーアンのポール・イマージュ・オート・ノルマンディーの写真ギャラリー

ノルマンディーを巡る

マクサンス・リフレにより2つの写真展と本

2010年5月～10月

トゥールヴィル・シュール・メールのヴィラ・モントペロ美術館

「フェルナン・ビニョン、印象派の軌跡をたどる写真家・映像作家」展

2010年6月12日～10月3日

ヴェルモンのプーラン美術館

「ジョルジュ・ルース指揮による印象派の時代のウール県での写真キャンペーン」展

2010年6月～9月

エヴルー美術館

「ダニエル・ケスネー指揮による印象派の時代のウール県での写真キャンペーン」展

2010年6月～9月

音楽とダンス

ルーアン・オート・ノルマンディー・オペラ座

オーケストラ・プログラム：海とピアノのマラソン

フランス音楽合唱プログラム

オペラ・プログラム：ペレアスとメリザンド

2010年6月～10月

ルーアン地方音楽院

印象派に関するコンサートと講演会シリーズ

2010年6月～9月

ノルマンディー・ミュージカル

ドビュッシー、フォーレ、ラヴェル、テオドール・デュボワの作品を演奏する20回のコンサート

ノルマンディー地方各地

2010年6月～9月

オニックス・カルテット、作曲家ドミニク・ルメートル

ノルマンディー

弦楽四重奏とドミニク・ルメートルの作品

オニックス・カルテットによる4回のコンサート

ルーアン市立ポップ・シンフォニック・オーケストラ

ノルマンディー地方各地でのコンサート

2010年6月～9月

映画

ジュミエージュ修道院

映画の屋外上映

2010年7月16日金曜日

2010年7月18日土曜日、午後10時半

ゴーモン・パテ映像保存館

300時間以上に及ぶ印象派についての資料映像カタログ

ノルマンディー地方各地にて。

装飾芸術

ルーアン陶磁器博物館

印象派の陶磁器

2010年6月20日～10月5日

一般向けのお祭りイベント

印象派の画家たちに倣い、ノルマンディー印象派フェスティバルでは、訪れる人々に、息抜きのための特別のひと時も用意しています。草上の昼食、郊外の居酒屋、ダンスパーティー、クルージング、機関車での遊覧、美食との出会い、記念建造物イルミネーション、青空絵画教室など、みんなで楽しく交流しながらリラックスして楽しみましょう。こうした一般向けお祭りイベントは、訪れる人々にとって、ノルマンディーの風土が生み出す素晴らしい風景と環境を存分に楽しむ良いチャンスです。

ノルマンディー地方観光局や、各県や町の観光局の協力で、夏の間、ノルマンディー地方の各地で、こうした盛大なお祭りが開催されます。

草上の昼食

2010年6月20日 日曜日

初夏の一日を、家族や友人たちとピクニックで過ごします。フェスティバルの一環として、マネとモネの「草上の昼食」と、ルノワールの「舟遊びの昼食」が再現されます。和気あいあいとしたこのひとときは、印象派の画家たちが愛した雰囲気をも今に蘇らせます。

ノルマンディー印象派フェスティバルの大ピクニック・パーティーは、2010年6月20日 日曜日に、セーヌ河畔や海岸沿いを中心にノルマンディー地方の各地で開催されます。この機会のために作られたテーブルクロスと、カンカン帽とお扇子が、参加者に提供されます。

青空絵画教室

2010年6月20日 日曜日

印象派が革新的であったことのひとつが、画家がアトリエを飛び出して、屋外で描いたことです。市や村の主催で、アマチュア画家たちも、印象派の有名な作品画描かれた場所や、公園や庭園で、その場所から得た印象を描くことができます。

印象派ゆかりの居酒屋やダンス・ホール

2010年7月13日 火曜日と14日 水曜日、そして夏の間。

印象派の芸術たちのお気に入りの場所、そして、都市に住む人々が日曜日にこぞって出かけた場所、それがガングットと呼ばれる郊外にある居酒屋です。多くの場合、川岸にあり、和気あいあいとした雰囲気の中で、音楽とダンスとゲームと簡単な料理が楽しめます。

フェスティバルの期間中、主にセーヌ流域のノルマンディー地方の各自治体では、ルノワールやモネの時代のガングットの雰囲気再現します。

ローラースケートや自転車、徒歩での印象派の大集合（仮題）

2010年9月19日 日曜日

印象派は、作品だけでなく、今も生き生きと思い起こすことができ、この目で見ることができる、場所、風景、雰囲気を遺産として残しました。

ローラースケートや自転車や徒歩で集まった町の散策は、印象派ゆかりの場所をスポーツ感覚で見ることができる良いチャンスです。

セーヌ川クルージング

エルブッフ、ルーアン、ラ・ブイユ、デュクレール、ジュミエージュ、コデベック・アン・コーの間に広がるセーヌ川の河口付近を観光します。プログラムは、史跡の見学、矢印がついた村の中の見学、曳き船の道、ロマネスク様式の修道院の見学、船での遊覧、ノルマンディー・セーヌ・ボークリューズ地方公園の見学など盛りだくさん。

印象派列車

ソットヴィル・レ・ルーアンにある引退した鉄道員たちが作るパシフィック・ヴァプール・クラブでは、1922年に作られ歴史遺産の指定を受けている蒸気機関車《パシフィスタ231G558》を修復しました。クラブでは、印象派の芸術家たちがよく通った路線を走る短いけれど独創的な旅を提案しています。

ルーアン

ルーアンの印象派の夜

ナイト・スペクタクル

2010年6月～9月

音と光、最新技術と文化遺産が一つに溶け合う「印象派の夜」は、夏の間だけ上演され、ルーアン市民や観光客を魅了します。それはまた、ルーアンの大聖堂正面と美術館が美しく彩られる貴重なひと時でもあります。

毎晩、人々は、印象派と深いかわりのあるこの二か所のルーアンの名所に投影される光と影のコントラストや素材の妙を楽しみ、スペクタクルに酔うことでしょう。

スケルツォのユニット名で知られる演劇界と映画界出身の演出家、エレヌ・リシャールとジャン・ミッシェル・ケスネが、フランス各地で、光と音のつかの間のスペクタクルを創作しています。最新技術と文化遺産を組み合わせることで、彼らは、都市のスペースを劇場とする新しいスペクタクルの形を模索しています。彼らの活動は、多岐にわたります。最近では、カタールでのアジア大会の開会式、キエフでのフランスの春、2003年リヨンの光の祭り、アミアン大聖堂の扉の彩色の再現、ルーアンのスペクタクル、ピクセルによるモネの大聖堂などを手がけました。スケルツォは、3年前から、ル・マン市のキマイラの夜にも参画しています。

マリタイム美術館、川と港

2010年6月1日～12月30日

「セーヌ川のレジャー」展と連動して、様々なイベントやツアーが一般向けに開催されます。

19世紀から20世紀初頭の船とボートの集合

レジャーやスポーツ用の川船の愛好家やプロが集う楽しいお祭りです。

アマチュア画家への特典

ポンポン・ルージュや美術館の中庭のルーアン港を見渡す素晴らしいビュー・ポイントが、アマチュア画家に提供されます。

アマチュア芸術家や団体、学校が参加する創作アトリエ

現代の芸術手法の中の印象派の影響について学びます。

パルク・ド・クレール - セーヌ・マリタイム県の名所と美術館

ルーアンから20分のところに位置するパルク・ド・クレールは、一日のうちでも様々に変わる光によって美しく彩られる場所で、ノルマンディー印象派フェスティバルにふさわしい生き生きとした自然を演出できる空間です。

パルク・ド・クレールは、6月20日～9月19日までの間、フェスティバルに参加し、《印象派の変遷》と題して、「水辺のガンゲット」や、「植物の印象」などを開催します。

「水辺のガンゲット」は、クレレット川岸に、クレール市の協賛で作られます。19世紀のガンゲットの伝統に基づいて、音楽とお祭りとダンスの楽しい雰囲気を再現し、インテリアも、当時の雰囲気や活動を正確かつ詳細に思い起こさせるものとなります。演奏家や歌手たちが奏でる音楽に、人々は思わず踊り出すことでしょう。料理は、シンプルで美味しく、しかも安いので、ゆっくと過ごすことができます。入場は無料です。

「植物の印象」は、2010年6月末から10月末までの期間、クレールで開催されます。公園内の4ヶ所に、拡大された印象派の絵のモチーフの巨大な複製が設置されます。各々の

絵画パネルの前には、公園の庭師たちの手によって、その絵画の複製を鏡で写したような、あるいはそれを延長したような植物のパレットが制作されます。

単なる作品の複製を超えて、ズームアップされたイメージと組み合わせ、印象派の絵の筆遣いや植物の反射を見せながら、オリジナルな作品を作り上げることが目的です。

ドーヴィル — ウジェーヌ・ブーダンの日

アートと音楽と美食と演劇のイベント

2010年8月8日 日曜日

1824年7月12日にオンフルールに生まれたウジェーヌ・ブーダンは、1862年から毎夏、トゥルーヴィルとドーヴィルに滞在しました。1884年にはドーヴィルに家を見て、晩年の14年間をそこで過ごしました。1898年8月8日に、その家で、ブーダンは亡くなります。印象派の巨匠であるブーダンに敬意を表して、ブーダンの日がドーヴィルで制定されました。

12時30分：草上の朝食、競馬場での印象派ビュッフェ

午後6時：板張りの遊歩道での絵画教室と、ポンペイ様式の浴場での講演会。

ドーヴィルの板張りの遊歩道には、ビデオ・プロジェクターが設置されます。

カブール

ノルマンディー印象派フェスティバルの一環として、カブール市は、フェスティバルに合わせた夏のイベントを企画しています。

市内のすべての公園や大通りでは、印象派をテーマにした植物による演出が行われます。

2010年7月10日から8月22日まで、文化愛好家も、夏のお祭り好きな人も、両方が満足できる一般向けのイベントを予定しています。

花で飾られた少女たち

《アコール・ギャラリー》ラベルを取得してリニューアルしたグランド・ホテルのオープンに合わせて、当時の服装を身にまといカブールの浜辺でお茶を楽しみます。

木曜日の講演会シリーズ

夏の文化講演会シリーズの一環として、カブールでは、2010年7月15日から8月19日まで毎木曜日、印象派をテーマにした講演会を開きます。

グランド・ホテルの印象派イルミネーション

カジノの庭とグランド・ホテルの正面玄関が、2010年7月10日から8月20日までの毎日曜日の夜、光と音のスペクタクルのスクリーンとなります。印象派の絵が、20分間にわたりBGMとともに投影されます。

堤防の上のディナー

今回で7回目となるフランス最大の晩さん会は、2010年8月22日に、ノルマンディーの夕日に染まる海を眺めながら、印象派をテーマに開催されます。2500人以上の人々が、当時の衣装を着て、野外ディナーに参加します。

トルーヴィル

町中で描く

2009年から始まった新しいアマチュア画家向けのイベントで、トルーヴィルの町中で絵を描きます。2010年のテーマは、《印象派の画家たちのように》です。

複製絵葉書

印象派をテーマにした絵葉書の投影とレクチャー

屋外上映会

パテ・ゴーモンの映像資料館との協賛で、映画の屋外上映会が開かれます。

ジュミエージュ修道院 - セーヌ・マリティーム県の名所・美術館

積み藁展をめぐる屋外イベント

2010年7月3日土曜日

10:00 二つか三つの積み藁の制作が、《ブドウ園》と名付けられた公園で、朝から始まります。ノウハウと技術を持つ干し草職人たちが参加します。

12:30 《草上の昼食》、格子柄のテーブルクロスで。

ディエップ

フェスティバルの一環として、芸術と歴史の町ディエップは、印象派の画家たちがこの町に滞在した事実を生かして、彼らが足しげく通った場所や、彼らが交際した芸術家、そして彼らがディエップとその海岸地帯に向けた視線をクローズアップします。

印象派の時代の車（初期の自動車）を所有するディエップ・レトロの協力で、税関の小道ヴァランジュヴィルや浜辺と断崖のプールヴィルの見学が行われます。

カミーユ・サンサーンス音楽院（シドンパド）

音楽院では、オート・シュール・メールの年次コンサートとして、ディエップ近郊のノルマンディーの海岸地帯で活躍したフランスの作曲家の曲を中心に、印象派をテーマにしたコンサートを行います。夏の間の4カ月間のうち4つの週末に開催。

海辺。

パシフィック・バプール - 海辺の週末：印象派運動における海辺とその重要性の発見

ディエップへの旅は、印象派運動の誕生にとって、汽車が、芸術家と住民の海の世界との出会いと発見において、いかに重要な役割を果たしたかを、見せてくれます。

同時に、フェスティバルに合わせて切手のイベントも開かれます。

ノルマンディー印象派フェスティバルの開催に合わせ、郵便局は、10枚つづりの2種類の切手コレクションを発売します。これは、ノルマンディー地方で描かれた作品を絵柄にしたもので、そのうち1種類は英語版です。そのままポストに投函できる切手がついた封筒も発売されます。発売記念のイベントが、ルーアンとカーンで開催されます。ノルマンディー地方のすべての郵便局が、プログラムの配布などの形で、フェスティバルに参加します。